

(第五部 聖地巡礼)

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

塩谷惠策 SJ

50

第十五幕

エルサレム 1523年9月6日(日)

登場人物：巡礼者 イニゴ

ディエゴ・マニェス：聖ヨハネ騎士団の司令官

スペイン人司祭

ピエール・フスリ 他 巡礼者 17人

フランシスコ会修道士： 聖地の案内担当者

【語り】 イニゴたち巡礼者は エルサレムに着いて初めて迎えた主日(9月6日)の朝、聖墳墓教会でミサに与り聖体を拝領しました。ミサの後教会の入り口に集まった巡礼者たちは、感動のあまりほとんど言葉もなく、静かに立ち尽くしていました。

スペイン人司祭：主の十字架の立つカルワリオの丘で主日のミサに与れたことは、本当に大きな恵でした。言葉で言い表せないほどの、大きな慰めを感じました。

イニゴ：ここでわが主が私をすくうために十字架に釘付けにされ、愚弄され、晒し物にされながら息絶えるまで苦しまれたことを思うと、先程から涙が止まりません。私の罪ゆえに、主をこんな目に合わせ、お命まで奪ってしまうとは…

ディエゴ・マニェス：聖地を出発する前に、休養日があるようなので、その時みなが何を感じ祈ったか分かち合うのもいいですね？

司祭： いい考えですね。そうしましょう。

イニゴ： ここエルサレムやベトレヘムで今までにもまして、さらに生き生きと主キリストと出会い、み跡を慕って歩むことが出来ますように。

フランシスコ会修道士： 本日の午後、十字架の道行きをします。ポンティオ・ピラトの官邸（アントニオ要塞）跡に集まり、主イエスが十字架を担って歩まれた道をたどりながら、ご受難を忍びつつ祈ります。今週の予定を次のように考えています。

明日7日はベタニアとオリーブ山に、明後日8日（火）と9日（水）はベトレヘムに皆さんをお連れしますので、午後遅くなるかもしれませんが。10日（木）にはヨシャファトとケドロンの谷をご案内します。11日の晩はこの聖墳墓教会で、夜を徹して主キリストの十字架の観想とご復活を寿ことほぐ時間を取ります。土曜日と日曜日（12日、13日）は休養日になります。ではまた九つの時（午後三時）にお会いしましょう。

（それからイニゴに向かってスペイン語で）

昨晚私におっしゃった、当地の責任者にお会いになりたいとのご希望を院長に伝えました。今管区長が留守なので、院長がお会いになるそうです。

イニゴ： Frater（ブラザー）、有難うございます。何日ごろ御目にかかれますか？

フランシスコ会修道士： 院長は今週 午後時間をとることが出来ると思います。今申したような日程になりますので、土曜日か日曜日の休養日の午後があなたにとって一番いいのではないのでしょうか？

イニゴ： そうですね、そのようにお願いします。院長様に時間をとってくださり有難うございます。と、お伝えください。